

中小企業景気動向調査

本調査は四半期ごとに実施しています

調査期間
2026年4～6月期

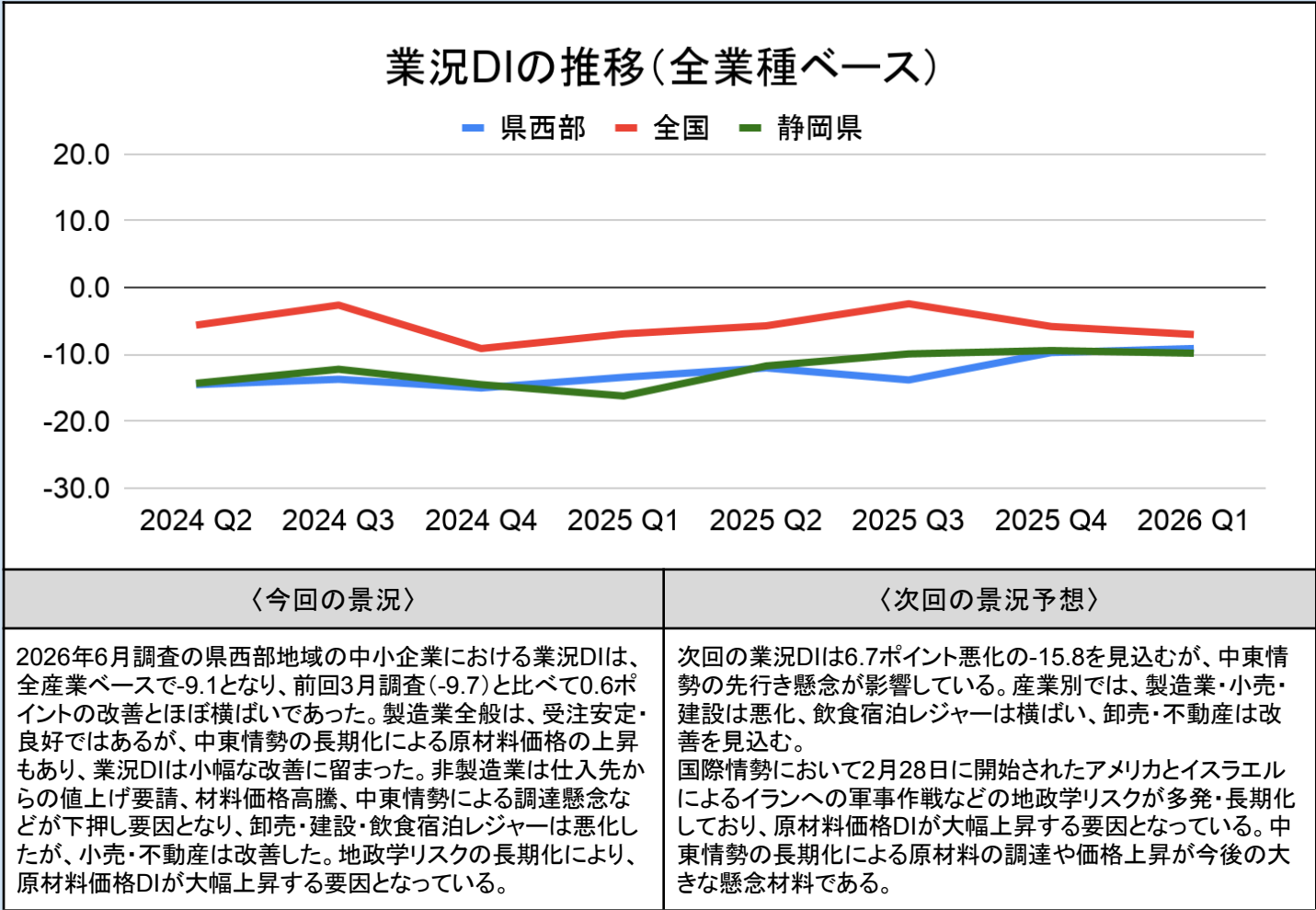
調査概況	
1. 調査目的	静岡県西部地域の中小企業の景気動向
2. 調査対象	静岡県西部地域の中小企業658社
3. 調査方法	調査票による面接聴取法 (遠州信用金庫、浜松いわた信用金庫に委託) 一般財団法人しんきん経済研究所が集計
4. 調査内容	前回(26年1～3月期)と今回(26年4～6月期)との比較、今回と比較した次回(26年7～9月期)の予想
5. 調査時期	2026年6月1日～5日
6. 回収状況	回収数622社(回収率94.5%)

景気動向判断指数について
この調査では、景気判断の基準として、DI (Diffusion Index)による分析方法を採用している。これは各質問項目で「良い」とみる企業の割合から「悪い」とみる企業の割合を差し引いた数値を時系列で観察することにより景況を判断する方法である。

静岡県西部地域・業種別景況天気図

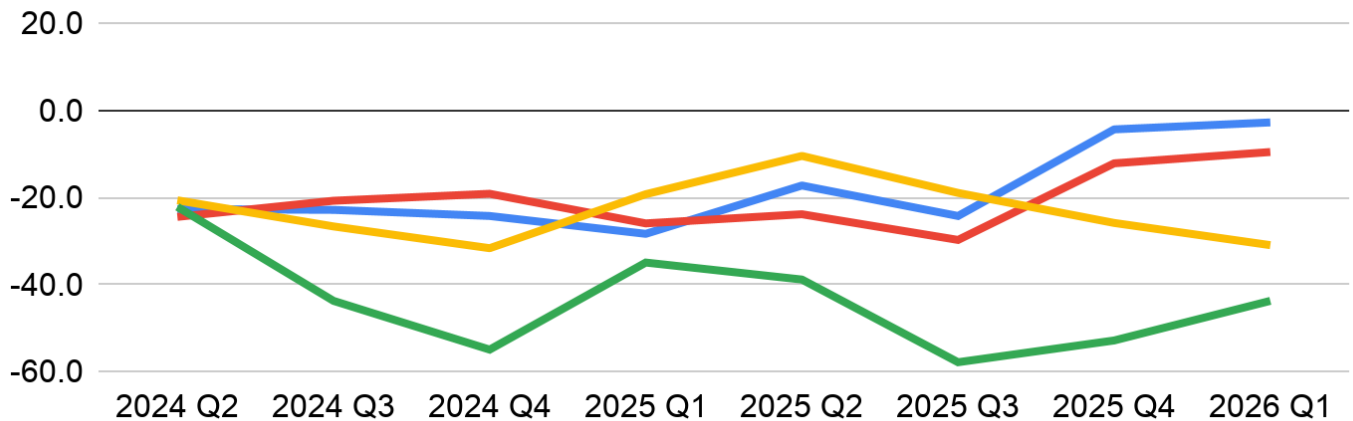
	全産業	自動車	二輪車	楽器	卸売	小売	建設	飲食、他
調査数	622	71	52	16	74	59	70	17
2026年 4～6月期								
2026年 7～9月期 予想								

* この天気図は、主要判断指数を総合的に判断して作成したものです。



製造業における景況感(DI値)

自動車 二輪車 機械 楽器



〈自動車〉

業況DIは1.6ポイント小幅改善の-2.8となり、2四半期連続で改善した。受注は安定しているものの、中東情勢の長期化による原材料調達を懸念し、主要3項目(売上額・受注残・収益)はいずれも悪化し、業況DIは小幅な改善に留まった。

〈二輪車〉

業況DIは2.6ポイント小幅改善の-9.6となり、2四半期連続で改善した。受注が良好な企業がみられる一方で、中東情勢の長期化に伴う原材料の調達や価格上昇を懸念する声も多く、主要3項目はいずれも悪化し、小幅改善に留まった。

〈機械〉

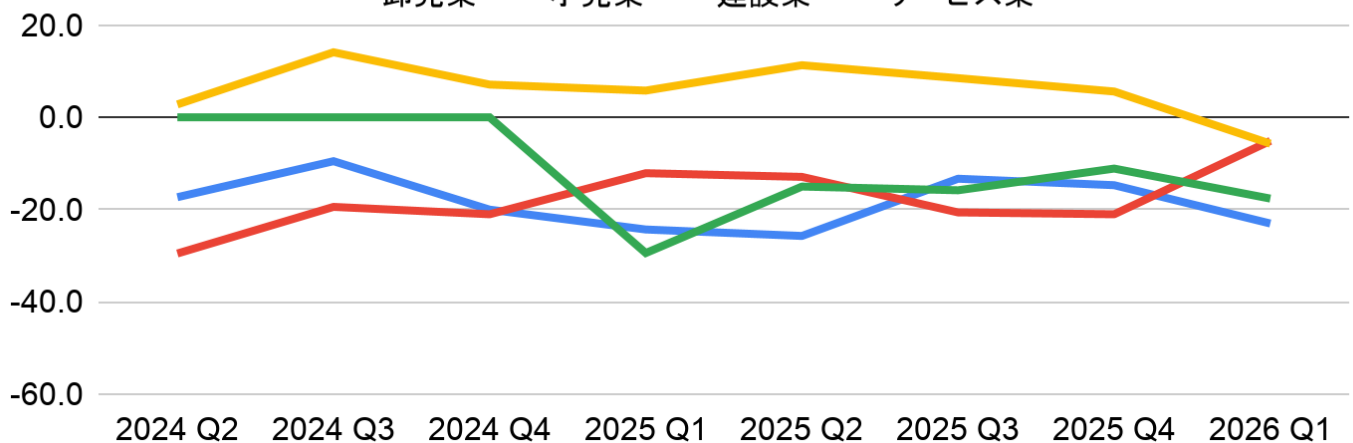
業況DIは5.1ポイント悪化の-31.0となり、3四半期連続で悪化した。受注残DIは大幅に改善したものの、中東情勢の影響等による売上額DIの悪化と先行き不透明感が相まって、業況DIの悪化につながったと推察される。

〈楽器〉

業況DIは9.1ポイント改善の-43.8となり、2四半期連続で改善した。原材料価格が高騰する中、価格転嫁に注力したことと販売価格DIが上昇し、収益DIの大幅な改善に繋がったことが業況DIを押し上げた。

非製造業における景況感(DI値)

卸売業 小売業 建設業 サービス業



〈卸売業〉

業況DIは8.3ポイント悪化し-23.0となった。仕入先からの値上げ要請が続いており、仕入価格DIの上昇に伴い収益確保が難しくなっている状況が業況DIを悪化させたものと推察される。

〈小売業〉

業況DIは15.9ポイント改善の-5.1となった。SNSでの発信効果による来店客数の増加や、EC販売の好調に関するコメントが複数寄せられており、これらが業況DIの改善に寄与したとみられる。

〈建設業〉

業況DIは11.3ポイント悪化の-5.7となり、8四半期ぶりにマイナス水準となった。材料価格が30.8ポイントと大幅に上昇したことに加え、中東情勢による調達懸念が収益や受注残を押し下げた。

〈飲食宿泊レジャー等〉

業況DIは6.5ポイント悪化の-17.6となった。飲食では材料価格の上昇に対し、顧客離れへの懸念から価格転嫁が進まず収益が悪化している。宿泊では中国団体客の減少などインバウンドの低迷が長期化している。